

HIGASHI OSAKA MIDORI R.C



SERVE TO CHANGE LIVES

CLUB WEEKLY

国際ロータリー 第2660地区
東大阪みどりロータリークラブ

創 立 1998年9月24日
会 長 北 井 孝 彦
幹 事 表 孝 典
会報委員長 井 上 善 博

2021-7-29 (第1000回)

今週のプログラム

≪7月29日(木)WEB例会≫

於: KOstyle モデルハウス「Nukata"D"salon」

◎卓 話 「就 任 挨 拶」
会長エレクト 田村嘉宏君

来週の予定

≪8月05日(木)例会KKRホテル2階「琴」≫

◎卓 話 「会員増強・新クラブ結成推進月間」
に因んで
クラブ奉仕・拡大増強委員長 加茂次也様

先週の出席者

≪7月15日(木)例会≫

会員数17名 出席10名(83.3%)

*3月18日(木)例会修正出席率 86.6%
会員数18名 例会出席者10名/メークアップ3名

幹事報告

幹事 表 孝典君

◎本日の例会は、1000回記念と初めてのWEB例会です。多数ご参加頂き有難うございます。
◎次週(8/5)の例会後、定例理事会を行います。
◎8月12日はお盆日のため休会です。

会長の時間

会長 北井孝彦君

改めて、本年度RIシェカール・メータ会長のテーマは、『SERVE TO CHANGE LIVES 奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために』です。特に強調されているのは、「会員増強は解決すべき最優先課題だ」ということです。RIの会員数はこの17年間約120万人と横ばいですが、2660地区では3600人で25年間で2000人近く減少しています。

2660地区吉川秀隆ガバナーは地区の年次目標として「クラブ会員基盤を強化し、各クラブ純増1名を目指す」ことを掲げています。また、年度の重点施策として「教育の支援」を掲げておられます。

さて、あと8日で第32回東京オリンピックの開会式を迎えます。コロナ禍でマスコミは開催反対をあり調査では4割程度の国民も開催に反対をしているようです。

57年前の第18回東京オリンピックの前も、「時期尚早、お祭り騒ぎより他にお金を使うべきだ...」との声があったそうです。しかしながら、いざ始まってみると著名な作家や評論家から次のように記した



そうです

・三島由紀夫

「オリンピック反対論者の主張にも理はあるが、今日の快晴の開会式を見て、私の感じた率直なところは『やっぱりこれをやってよかった。これをやらなかったら日本人は病気になる』ということだ」

・小林秀雄

「毎日、オリンピックのテレビばかりを見ていて、何もしないのである。(略) オリンピックと聞いて嫌な顔をして、いろいろ悪口を言っていた人も、始まってみれば、案外、テレビの前を離れられないでいるかもしれない」

・歌人吉野秀雄

※もともと五輪に対して冷ややかでしたが...

「幸い秋空美しく晴れ上がりて日本中のよろこびとなる」(昭和39年10月10日)

「五輪は日本人意識を取り戻したことはよかった」と総括している。

おそらく、今時の東京オリンピックも素晴らしい選手の活躍を見て感動をいただき前回のよう結果となることを祈念したいと思います。

特に、8月5日、村上会員の村上学園東大阪大学敬愛高等学校の卒業生、空手の清水希容選手の活躍に注目です。

就任挨拶

例会担当 井上善博君

今年度、例会担当委員長を務めさせていただきます。今中です。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度は新型コロナウイルスにより例会開催にあつての、感染対策などを充実して、安全な例会の開催に向けて取り組みたいと思います。

その他にも、著名な講師を卓話に招くなど、変化に飛んだ例会の開催、移動例会なども多くして例会出席の向上を目指して、頑張りたいと思います。

新型コロナウイルスによる影響で、色々とイレギュラーな

ことが考えられますが、皆様と一緒に乗り越えて行けるように、精一杯努力して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

会員交流 木戸章由君

会員交流の主な事業としまして会員同士・会員のご家族の親睦と増強活動がメインになります。その中で増強活動が第一と言えます。毎年、緩やかではございますが減少してきています。コロナ過でございますが、会員の皆様方の協力をお借りして増員出来たらと思います。

親睦の方ですが、コロナ過の中で例年通りの開催出来るかわかりませんが会員交流のみんなでお考えながら会員の皆様方・ご家族の親睦を図れるように頑張っていきますので宜しくよろしくお願い致します。

国内担当 阪田克英君

現在、このコロナ禍の状況でこの2年弱奉仕活動という事は何も出来ていませんが、しかしいつかこの状況が一変されることを期待して、本年度国内奉仕委員会に何が出来るかも考えていきたいと思えます。

2021～22年度の国際ロータリーのテーマは「SERVE TO CHANGE LIVES」(奉仕しよう、みんなの人生を豊かにするために)です。そのテーマに沿って、国内奉仕委員会は、奉仕事業に力を入れてみんなの人生、特に子供たちの人生や未来を豊かにするために活動していきたいと考えています。また本年度みどりRCの会長のスローガンは「相視て笑い、心に逆らふこと莫し「莫逆の交」を目指そう!!」であります。気心の知れたみどりロータリーの仲間たちと有意義なロータリー活動を行う為にも今年度は下記の事業に力を入れていきたいと思えます。



- ・絵本の普及の推進事業
- ・子供食堂などのサポート事業
- ・コロナ禍における子供たちへのサポート事業

国際担当 谷口 明君

今回の新型コロナにより社会的・経済的活動が停滞し、前年度に引き続き今年度も国際奉仕を行うことは非常に厳しい状況にあります。

今夏、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されました。選手たちはアスリートトラックによる特例での入国が可能となり、開催が実現しました。

平和を象徴する祭典のオリンピックの閉会后には、ビジネストラックやレジデンストラックにより、より多くの国際的な人の往来が再開できるようになると期待しております。

最後になりましたが、北井孝彦会長が掲げられたスローガン『相視て笑い、心に逆ふこと莫し「莫逆の交」を目指そう』を胸に、今後、さらなるワクチンの普及や治療薬の開発により新型コロナが終息し、国際交流・国際奉仕活動が再び盛んになるよう心より願っております。

新型コロナ対応について

パンデミック 新型コロナウイルスが世界中に広がって大問題になっています。

ウイルスは宿主（ヒト）に寄生して増えるのであって、単独では生きていくことができません。ウイルスには足が生えていませんし羽もありませんので、自分から都合の良い場所へ移動することもできません。花粉のように空中を漂うか、昆虫（ヒトの手）によって他の人に移っていくしかないのです。

だから人間はコロナウイルスにとっては“培地”のようなものです。そこでウイルスの感染・拡大を防ぐには、①培地に蓋をする、②培地に抗ウイルス剤を混ぜておくしかありません。①培地をウイルスに曝さないことですから、マスクをする、密を避ける、都市封鎖が考えられます。しかし、ヒトを完全に孤立させることができなければ、培地に蓋することになりませんので、社会的には大変難しいことです。②これが集団抗体への期待と、ワクチン接種です。

———社会の人の 60～70%がウイルス抗体を持つと、ウイルスの爆発的な感染が防げると言います。

これには、住人のほぼ全員がウイルスに感染して体内に抗体を持つようになるか、あるいはワクチンを打って抗体をつくるか、しかありません。自然感染に任せて集団免疫を期待したスウェーデンの作戦は、しかし昨年、失敗に終わりました。

ワクチン接種 パンデミックを防止するには住民の 60～70%がワクチンを打つ必要があると言われていますが、ウイルスを撲滅するには住民の全てがワクチンを打っておくことが必要です。

かつて国内にさまざまな感染症が広がっていた時代には、ワクチン接種が法令で強制されていました。しかし我が国では現在、個人の自由意思に任せられていて、公衆衛生から言えば、いい加減な対策になりました。テレビでのアンケートでは、「年寄りだから」、「合併症があるから」、「副作用が怖いから」、・・・といった理由でワクチンを拒否する人がいますが、これは、行政・医療者、そしてマスコミの広報の失敗を物語っています。

(山片重房)

あいみ さから な
相視で笑い、心に逆ふこと莫し「莫逆の交」を目指そう!!

2021～2022年度 東大阪みどりRCのテーマ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021～2022年度 国際ロータリーのテーマ

SERVE TO CHANGE LIVES